

■発行／京都府医師会

これだけは知っておきたい
健康の知識

VOL. **43**

視野の一部が欠けるという特徴的な症状をもつ緑内障は、自覚したときにはもうかなり進行している場合が多いと言われ、早期の診断・治療が重要です。放置すれば失明に至る恐ろしい病気です。



緑内障

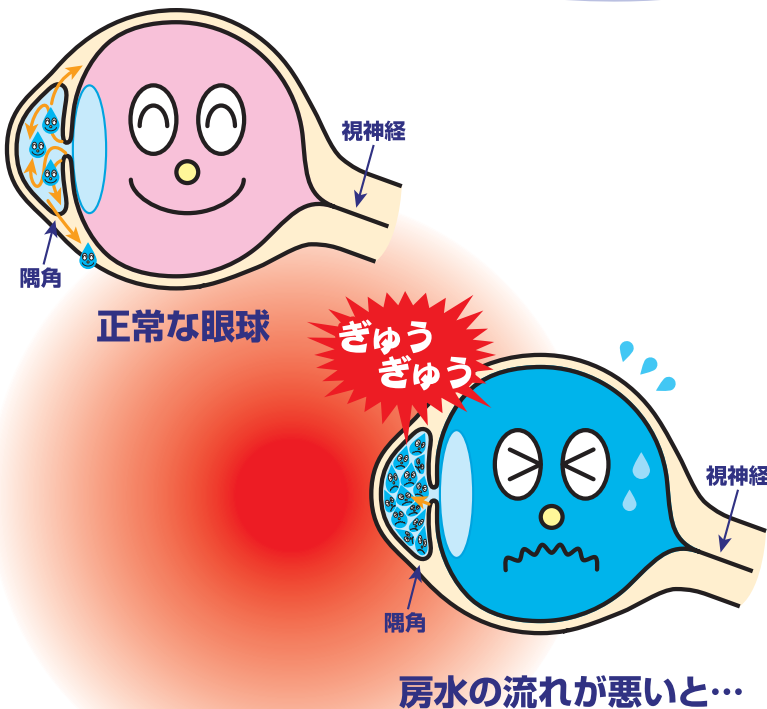
忍び寄る失明の恐怖

Glaucoma

目が見えなくなる恐怖。しかも何の前触れも無く現れたとしたら…

そんな病気の一つが緑内障です。

今回の『Be Well』では「緑内障」をテーマに取り上げ、忍び寄る失明の恐怖についてお話したいと思います。

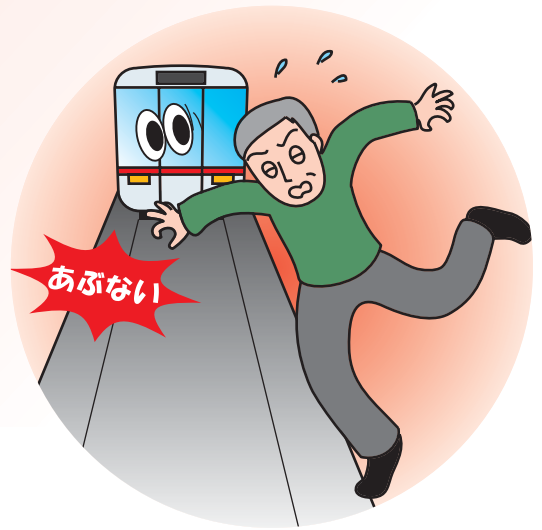
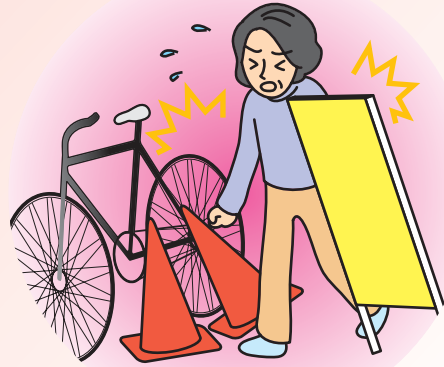


年をとってから目が見えなくなることの怖さを考えたことがありますか？

目の見えない生活

- テレビのない生活に楽しさを感じますか？
- おかずがどこにあるのか、どんな種類のおかずがあるのか分からない食事は楽しいですか？
- 洗濯しようとしても、汚れがあるかどうか分かりますか？ちゃんと洗えますか？
- お掃除はゴミが見えてこそ出来るもの。見えなくなって出来るでしょうか？
- お風呂に入れますか？シャンプーとリンスの違いは分かりますか？
- 一人で外出できますか？ちゃんと自宅に帰ることが出来ますか？
- 買い物に行って商品を選ぶことが出来ますか？

考えれば考えるほど大変さが分かります。



視覚障害を持った方を補助するために国は身体障害者手帳を発行し、生活支援を行っています。現在日本には視力障害のために身体障害者手帳を持つ方が約30万人おいてであり、その失明原因の第一位が緑内障なのです。

日本における成人の失明原因

緑内障が第1位!!

1989年

- 1 糖尿病網膜症
- 2 白内障
- 3 緑内障
- 4 網膜色素変性
- 5 変性近視

2002・2004年

- 1 緑内障
- 2 糖尿病網膜症
- 3 網膜色素変性
- 4 黄斑変性
- 5 変性近視



緑内障のタイプ

緑内障は視神経が萎縮する病気ですが、この病気の怖いところは自覚症状が無く、しかもじわじわと進行するタイプが多いので多くの患者さんが病気であることすら自覚していないということです。また、治療中の方も定期検査を受けないと病気の進行程度がわかりません。

失明がじわじわ忍び寄るタイプ（9割）

原発開放隅角緑内障（高眼圧緑内障、正常眼圧緑内障）

慢性閉塞隅角緑内障

混合緑内障

失明が急速におこるタイプ（1割）

続発開放隅角緑内障

亜急性・急性閉塞隅角緑内障

発達緑内障（旧先天緑内障）



緑内障の自覚症状

緑内障の発生頻度は40歳以上の方では人口の5%以上、つまり20人に1人が緑内障であり、しかも大多数の緑内障は自覚症状が乏しいのです。健診で見つかった緑内障患者さんのうち、自分で緑内障があることを自覚し医療機関で治療を受けていた方はわずかに2割に過ぎませんでした。

慢性緑内障の症状（自覚症状に乏しい）

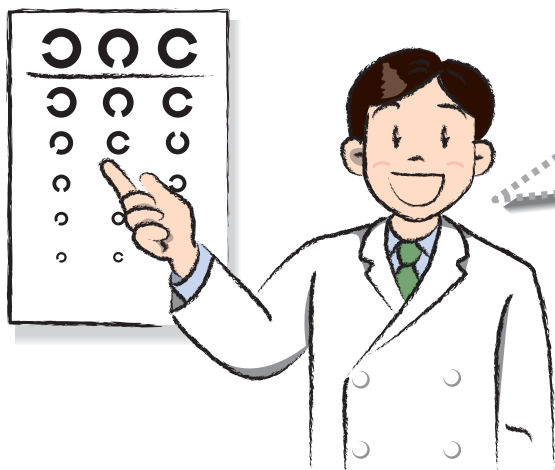
虹視症（電灯の周りに虹のような“カサ”が見える）、疼痛（鈍痛・重苦しい）、霧視、片頭痛

視野欠損、（ビックリ箱現象：見えないところから突然像が現れる）、読書時隣の字が見えない

視力障害（進行例）

亜急性、急性緑内障の症状（自覚症状が強い）

疼痛、充血、瞳孔不同、急激で高度の視力障害、嘔気、嘔吐



ワンポイントアドバイス

ときどき片目でものを見て視野をチェックする
開放隅角緑内障は自覚症状がないので、40才を越えたら
健診を定期的に受け早期発見、早期治療を心がける

**自覚症状がないので早期発見で
手おくれにならないように！**

一度失った視野は回復しない!これが緑内障の恐怖! =眼科専門医にご相談下さい=

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION

BeWell

医師会からの健康だより

これだけは知っておきたい
健康の知識

VOL. 43

無自覚のうちに進行、そして…

この病気の恐いところは、無自覚の内に障害が進行し、しかも受けた障害は回復しないということです。そこが同じように自覚症状が乏しいけれども治療すれば機能障害をほとんど残さない糖尿病や高血圧とは違うところです。

「痛くも痒くも無いのに知らないうちに見えなくなっている…もう回復しない」ということがあります。このことも緑内障が「忍び寄る病気」と恐れられるゆえんです。

緑内障の自覚症状のうち比較的多いものの一つに、文章を読むとした時に、「隣の文字が消えてしまっている事に気付いた!」というのがあります。しかし実はここまで進行したものはすでに「中期以上の緑内障」であることが多いのです。

早く発見して、早く治療した方が一生涯の視力を維持できる可能性が高くなります。ですから「早期発見、早期治療」が何より大切なのです。

緑内障と診断されても、これ以上の障害が重くならないように、一生涯良好な視力が維持できるようにすることが大切です。

治療は眼圧を下げるのが大切で、点眼、レーザー治療、手術治療などの方法があります、気になる症状がある方は一度、眼科専門医の検査をお受けになることをお勧めします。

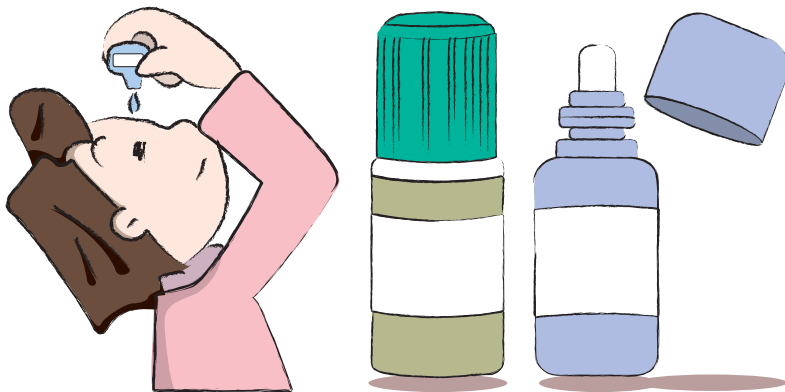


図1:慢性緑内障による視野欠損の例



視野の一部が欠けるのは、視神経が死んでしまったため、脳に視覚情報が伝わらないために起こります。

この症状になるまでには、緑内障が20~30年とかかってゆっくりと進行し、気付いた時には手遅れとなることがあります。両眼ともに起こるのが緑内障の特徴です。



京都府医師会

〒604-5858 京都市中京区御前通松原下ル TEL.075-312-3671 (代表)

<ホームページ> <http://www.kyoto.med.or.jp> <E-mail> kma26@kyoto.med.or.jp

●発行 SPRING 2007●